

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願い

聖隸浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	一側性声帯麻痺の全国調査
研究責任者	聖隸浜松病院 耳鼻咽喉科部長 岡村純 国際医療福祉大学 東京ボイスセンター 教授 渡邊雄介
研究実施体制	日本気管食道科学会推進研究:国内日本気管食道科学会専門医研修施設 研究責任者:国際医療福祉大学 東京ボイスセンター 教授 渡邊雄介
研究期間	研究承認日～2028年3月31日
対象者	当院で2023年1月1日から2024年12月31日までに一側性声帯麻痺と診断された患者さん
研究の意義・目的	声帯は人の声を司る音声コミュニケーションには欠かせない器官です。声帯はのど仮の裏側にある長さ15-20mm程度の一対の粘膜で、この粘膜が振動することにより声が生成されます。一側性声帯麻痺はこの声帯を支配している反回神経という神経が、頭頸部癌肺癌、食道癌、甲状腺癌や大動脈瘤などで圧迫されたり、それらの治療のための手術で反回神経を切断されたりした後に生じます。その結果、声帯は痩せて動きが悪くなり、気息性嗄声(息もれ声)となります。その結果、重度の音声コミュニケーション能力の低下により、対人不安のため就業、就学への影響が出ます。しかし、現時点で日本に一側性声帯麻痺の患者様がどのくらいいるのかが分かっていません。また、どこまでが軽症でどこからが重症なのかという重症度分類は定まっていません。そこで我々は、一側性声帯麻痺症例について診断基準や重症度分類の作成のため、全国規模で一側性声帯麻痺を調査することにより、日本における一側性声帯麻痺の疫学やどのような治療が行われているかを明らかにすることを考えました。疫学や治療の状況を把握することは今後、一側性声帯麻痺で悩む患者さんに新しい治療法を提供できる可能性があります。
研究の方法	当院で2023年1月1日から2024年12月31日までに一側性声帯麻痺と診断された患者さんのカルテデータから個人情報を除いた必要な情報を抽出し、中央集計したのち解析を行います。
個人情報の取扱い	この研究で得られた結果は学会や医学雑誌に発表されることがあります。このような場合患者様自身の個人情報などのプライバシーに関するものが公表されることは一切ありません。アンケート結果は、個人が特定できないよう匿名化して管理し、個人情報を保護します。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に 係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。

資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隸浜松病院 耳鼻咽喉科 岡村純 TEL:053-474-2222(代表) 耳鼻咽喉科外来 9:00~17:00 平日